



もやいの力

多くの方が望んでいるのは「自主・自律」や「自他尊重」の心を育てること

コミュニティ・スクールを進めていく上で、中心的役割を果たしていくのが学園運営協議会です。協議会の委員には、PTAやコミセン、地域の代表の方などになっていただいています。第2回の協議会では、委員の皆さんが「子供の課題とその要因」や「中学校を卒業する時まで身に付けさせたい力」について、意見を出し合いました。その中で、「委員は、あくまで代表なので、もっと多くの人の考えを聞いた方が良い」という意見が出されました。そこで、9月末から10月上旬にかけて、中央学園内の全保護者、各コミュニティの役員の方を対象にアンケートをとらせていただき、子供たちに対する思いや御意見をたくさんいただくことができました。御協力くださった皆様、ありがとうございます。いただいた御意見は、整理して協議会で話し合っていく材料として活用させていただきます。(詳細については、裏面をご覧ください。)

対象	対象者数	提出数	自主自律	自他尊重	郷土愛	勤労奉仕	その他	全て大切	
保	中央中	357	236	170	208	63	82	2	46
	南郷小	128	44	28	41	13	17	1	10
護	東郷小	350	135	79	95	12	22	2	20
	計	835	415	277	344	88	121	5	76
者	提出者での割合 (%)		66.7	82.9	21.2	29.2	1.2	18.3	
コ	東郷 地区	26	15	24	12	8	2	7	
	南郷 地区	11	5	7	3	4	1	1	
ミ	計	37	20	31	15	12	3	8	
セ	提出者での割合 (%)		54.1	83.8	40.5	32.4	8.1	21.6	
ン	提出者での割合 (%)		65.7	83.0	22.8	29.4	1.8	18.6	

【コミュニティ・スクールに関するアンケート調査の結果】

委員の皆様の見解やアンケートの結果から見てきたのは、多くの方が「自他尊重」と「自主・自律」の心が大切だと思われていること、保護者と地域の方の回答は、概ね同じ傾向だが、地域の方は、郷土愛や勤労奉仕といった地域を意識した思いを強く持たれていること等です。また、約2割の方が「4つの心は全て大切だ」と回答されていることは、どの心も大切だということを物語っていますが、共通の目標を立てて取組を進めやすくするために、「自主・自律」と「自他尊重」の心を育成することを柱にしていこうということになりました。

今後は、この2つの心を育てて行くために、具体的にどうしたらよいかを話し合い、地域の行事や活動、家庭の在り方などを見直す材料を提供できるようにしていきたいと考えています。

「キャリア教育」って何?

「キャリア」という言葉は、よく聞く言葉ですが、「その意味は?」と問われると、漠然としていてなかなか言葉で表しにくいものです。中央学園では、キャリア教育を進めています。さて、どんな教育のことでしょう。文部科学省は、「社会的、職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」(文部科学省:中央教育審議会答申より)と説明していますが、「キャリア発達を促す教育」といわれても、やはり、ピンときません。簡単に言うと社会に出て通用する力をしっかり身に付けさせていく教育のことです。

今回実施したコミュニティ・スクールのアンケートでは、9年生(中学3年生)までに身に付けてほしい大切な力として、大多数の方々が「自主・自律、自他尊重の心」をあげています。その根拠として考えられていたのが「社会に出て通用するように」や「困った時に助け合える関係をもっておくことは大切」などで、まさに文部科学省が説明している「社会的、職業的自立に向けて必要な能力や態度」になります。

さて、中央学園では、どのような取組がなされているのでしょうか。「社会的・職業的自立」に向けては、8年生(中2)が実施しているワクワクワーク(5日間の市内事業所での職場体験)で、働くことの意義や目的、楽しさ、厳しさなどの理解を図っていることが中心になります。



卒業生の話真剣に聞く9年生

しかし、その土台は、小学校1年生の時からつくられてきています。たとえば、係や当番活動、掃除などを行うことで、働くことの意義や良さ、人を喜ばせることの楽しさなどを体験的に学習しています。また、社会科の学習の中では、スーパーや小売店(3年生)、消防署・浄水場(4年生)、自動車工場(5年生)などに見学に行き、そこで働く人々の様子や思い・願いなどについて調べます。このように小学校の段階から働くことについての学習を積み重ねているわけです。逆にワクワクワークの後、9年生(中3)は、進路決定に向けて、先輩(卒業生)から高校での様子や学校の特色を聞いたり、家庭科の学習で乳幼児との交流をしたりして、将来のことをじっくり考え、進路を決めていきます。このように、社会に出て通用する人材の育成は、学校教育の場では、小学校の1年生から始まって積み重ねられていくため、小中一貫教育として、小・中学校が連携し、学習を進めることで、より大きな効果をもたらすことができるのです。



ワクワクワークで職場体験

キャリアノートを作ります!

中央学園では、来年度から子供たちに「キャリアノート」(仮称)を書かせるようにしています。「キャリアノート」とは、体験を通して得たことや将来どうなりたいか、どうしたいか、そのために、1年間どんな努力をしていくかなど、子供たちが夢や目標を持ち、具体的な計画を立て、その実現に向かって進んでいく力(キャリアプランニング能力)を身に付けるために行ったことを記録していくものです。毎年書き加え、小中学校9年間を通して積み重ねていくことで、子供の意識もしっかりとしたものになっていくと期待しています。また、保護者の方にも見ていただくようにしていくことから、家庭とも一緒になって子供たちの成長を見守り、励ましていくことができるものになります。

